



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3341		
科目名	コミュニケーション英語 1		
担当教員	吉田 正法		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 4		
講義室	1210	単位区分	選
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 3 - H [論理的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 D P 6 - K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。</p> <p>■ C Rコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモングループリック (C R) との関連 A 2 異文化適応 (30%) H 1 論理的思考 (30%) K 2 オーラルコミュニケーション (40%)</p>		
教員の実務経験	行政官として国際業務に従事した経験を踏まえ、国際政治・安全保障の分野の英文を題材として、英語力強化の方法を説明し、練習する機会を提供したいと考えています。(第1回~第4回, 第6回~第9回, 第11回~第14回)		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ~ 4 定着期		
科目概要・キーワード	<p>コミュニケーション英語は危機管理の専門家に求められる国際的発信力を強化するための英語専門科目であり、主として英語によるスピーキングとライティングの発展的スキルを養うための授業を行います。本講義ではスピーキングの基礎を固める授業を行います。会話を展開していくために必要な基本的な英語の応答パターンの確認から始めて、各種メディアに取り上げられている時事問題の中でも、ある程度危機管理に関連する素材を中心に活用をして、その中で用いられる語彙の運用の能力の強化、また発音やリズム、イントネーションに留意した明瞭な発話ができるようになるための練習を行っていきます。発展的な内容を扱うために選抜制をとり、レベル別クラス編成(上級・中級)を実施し、学習効果を高めます。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード 英語、コミュニケーション、危機管理</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 英語での危機管理に関する講演やセミナーでの発表や質疑応答の場にふさわしい発信の表現と作法を学びます。</p> <p>■授業の目的 講演やセミナーにおける場にふさわしい英語での発表や質疑応答に必要な基本的な応答パターンを習得するとともに、国際政治・安全保障に関連する語彙や表現の運用能力を高め、英語の発音やリズム、イントネーションに留意した明瞭な発話ができるようになることを目的とします。</p> <p>■授業のポイント</p>		

	<p>危機管理の専門家として国際的な発信を行うには、専門分野での英語の語彙や表現の運用能力に加えて、教養ある常識的な社会人として場にふさわしい英語表現を選択することが必要になります。こうしたアウトプットを行うには、まず、構成部品となる表現のインプット（表現の引き出しを増やすこと）が必要です。こうした所要を満たすため、この授業は二部で構成されています。</p> <p>第一部では、教科書『携帯版 会議英語』に基づき、講演やセミナーでの発表や質疑応答の場に相応しい英語の表現と作法を学びます。多くの定型的な表現の中から自分になじむ表現をストックしていきます。</p> <p>第二部では、国際政治・安全保障に関する歴代の欧米指導者の演説等を題材に、この専門分野における表現・語彙の運用力を高めます。テキストを完全に理解した上で音声との照合を繰り返してリスニング能力を高めるとともに、テキストなしでのシャドウイングを繰り返してインプットとアウトプットに必要な神経回路の形成と作業の自動化を一体的に図ります。</p> <p>授業を三期に分割し、各期の最終授業でそれまでの各自の練習の成果を測定して総合到達目標の達成を図ります。</p>				
<p>総合到達目標</p>	<p>■英語によって自分の考えを聞き手に口頭で的確に伝達する能力を高めるために、英語で行われる危機管理に関連する演説のスタイル、語彙やその背景知識を理解するとともに、日々の練習を積み重ねる態度を涵養し、講話に際して用いられる定型的な英語表現を駆使する技能を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理に関する題材を取り扱う英文を聞き取り、その内容を正しく理解できる。（第1回～第4回、第6回～第9回、第11回～第14回）</li> <li>・英語の発音、リズム、イントネーションに注意して発話することができる。（第1回～第15回）</li> <li>・場に相応しい丁寧さを伴う定型的な表現を想起してみずから使用することができる。（第1回～第15回）</li> <li>・危機管理に係る英語の語彙を正しく想起し使用することができる。（第1回～第15回）</li> <li>・危機管理に係る著名な英語の演説、表現とその背景知識を説明することができる。（第1～第15回）</li> </ul>				
<p>成績評価方法</p>	<p>■授業参加度（40％）：適用ルーブリック A2・H1・K2 （評価の観点）発言、質問、意見の交換など授業構築への参加度を評価します。 （フィードバックの方法）授業の場でフィードバックします。</p> <p>■授業内テスト3回（10％×3）：適用ルーブリック A2・H1・K2 （評価の観点）言語的コミュニケーションにおける日英の文化的差異と危機管理に関する英文の内容と語彙の理解を問い、評価します。 （フィードバックの方法）テスト終了後、正答例を配布して解説を加えます。</p> <p>■実技・パフォーマンス3回（10％×3）：適用ルーブリック A2・H1・K2 （評価の観点）発音、リズム、イントネーションに注意しつつ、適切な英語で発話できるかを評価します。 （フィードバックの方法）パフォーマンス終了後、評価用ルーブリックに基づいたフィードバックを行います。</p>				
<p>履修条件</p>	<p>原則として、授業を受講する前（直近）の学期末に実施された統一テスト（CASEC）等のエビデンスに基づいて、一定以上の英語力を認められた者のみが受講が認められます。授業で指示された方法論に基づく実践練習を完遂する意思のある学生の参加を歓迎します。</p>				
<p>履修上の注意点</p>	<p>この授業では、危機管理学部の学生（特にグローバル領域選択者）が興味をもって挑戦することが可能と思われる教材と実績を伴う合理的な練習方法を提供します。しかし、授業に出席して各自が実践できる練習はわずかな量にすぎません。野球の強打者が自主練習での素振りを欠かさないように、英語の上達には地道な練習の積み重ねが必要です。</p>				
<p>授業内容</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1659 512 1704">回</th> <th data-bbox="512 1659 1497 1704">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1704 512 2159">1</td> <td data-bbox="512 1704 1497 2159"> <p>①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、評価の仕方） 第1部 講師・演者のための英語表現。 第2部 チャーチル Blood, toil, tears and sweat</p> <p>②授業概要 （第1部）講演冒頭の典型的な挨拶表現を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。（A2・K2） （第2部）演説の背景と内容、専門用語を確認する。（A2・H1・K2）</p> <p>③予習（30分） シラバスの内容を精査する。シラバスの内容を踏まえて、この講義の受講を通じて達成すべき自分なりの成果の目標（例：15回の授業終了後に、この科目に関して他者からも認められるようありたいと思う自分の姿）を設定して書き出す。この目標を達成するための方策（例：シラバスに書かれている予習と復習を必ずやり遂げる）、予想される困難とこれを克服する方策（例：よく判らなかつた部分を放置せず友人と相談す</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、評価の仕方） 第1部 講師・演者のための英語表現。 第2部 チャーチル Blood, toil, tears and sweat</p> <p>②授業概要 （第1部）講演冒頭の典型的な挨拶表現を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。（A2・K2） （第2部）演説の背景と内容、専門用語を確認する。（A2・H1・K2）</p> <p>③予習（30分） シラバスの内容を精査する。シラバスの内容を踏まえて、この講義の受講を通じて達成すべき自分なりの成果の目標（例：15回の授業終了後に、この科目に関して他者からも認められるようありたいと思う自分の姿）を設定して書き出す。この目標を達成するための方策（例：シラバスに書かれている予習と復習を必ずやり遂げる）、予想される困難とこれを克服する方策（例：よく判らなかつた部分を放置せず友人と相談す</p>
回	内容				
1	<p>①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、評価の仕方） 第1部 講師・演者のための英語表現。 第2部 チャーチル Blood, toil, tears and sweat</p> <p>②授業概要 （第1部）講演冒頭の典型的な挨拶表現を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。（A2・K2） （第2部）演説の背景と内容、専門用語を確認する。（A2・H1・K2）</p> <p>③予習（30分） シラバスの内容を精査する。シラバスの内容を踏まえて、この講義の受講を通じて達成すべき自分なりの成果の目標（例：15回の授業終了後に、この科目に関して他者からも認められるようありたいと思う自分の姿）を設定して書き出す。この目標を達成するための方策（例：シラバスに書かれている予習と復習を必ずやり遂げる）、予想される困難とこれを克服する方策（例：よく判らなかつた部分を放置せず友人と相談す</p>				

	<p>る、オフィスアワーの時間を利用して教員に質問する) を考える。『会議英語』の150～156頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分)</p> <p>ポートフォリオ作成用のファイルを準備し、予習用資料・講義スライド・ノート・小テストの回答と講評等を蓄積していく。自分の生活リズムの中で予習×授業×復習の時間を確保する学習計画(日課表)を作成して、学習のPDCA (Plan-Do-Check-Action) を始動する。『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
2	<p>①授業テーマ</p> <p>第1部 講師・演者のための英語表現</p> <p>第2部 チャーチル We shall fight on the beaches</p> <p>②授業概要</p> <p>(第1部) 声の通りを確認する表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2)</p> <p>(第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習 (30分)</p> <p>『会議英語』の155～161頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分)</p> <p>『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
3	<p>①授業テーマ</p> <p>第1部 講師・演者のための英語表現</p> <p>第2部 チャーチル The finest hour</p> <p>②授業概要</p> <p>(第1部) 講演論旨を最初に述べる表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2)</p> <p>(第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習 (30分)</p> <p>『会議英語』の161～166頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分)</p> <p>『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
4	<p>①授業テーマ</p> <p>第1部 講師・演者のための英語表現</p> <p>第2部 チャーチル Never was so much owed by so many to so few</p> <p>②授業概要</p> <p>(第1部) 講演中の論点の詳述・略述・速述の表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2)</p> <p>(第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習 (30分)</p> <p>『会議英語』の166～171頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分)</p> <p>『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
5	<p>①授業テーマ</p> <p>第1回から第4回までの授業のまとめ</p> <p>②授業概要</p> <p>(授業内テスト) 授業内テストを実施する。テスト実施後の解説を踏まえて、知識とスキルの定着を図る。(A2・K2)</p> <p>(実技・パフォーマンス) 第1回から第4回までの学習成果を踏まえた発表を行い、振り返る。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習 (30分)</p> <p>授業内テストに備えて第1回から第4回の内容を改めて振り返る。指示された実技・パフォーマンスの準備をする。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分)</p> <p>授業内テストと実技・パフォーマンスの評価を踏まえて学習をさらに振り返り内容の定着を図る。学習の記録をつける。第1期分の学習状況と英語力の伸長の関係性を検討する。</p>

6	<p>①授業テーマ 第1部 講師・演者のための英語表現 第2部 チャーチル Iron Curtain</p> <p>②授業概要 (第1部) 講演中の論点を限局・省略・中止・強調・後述する表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2) (第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習(30分) 『会議英語』の172～175頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習(30分) 『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
7	<p>①授業テーマ 第1部 講師・演者のための英語表現 第2部 トルーマン Truman Doctrine</p> <p>②授業概要 (第1部) 講演中に上映されるスライドの上映方法の指示・説明開始の表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2) (第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習(30分) 『会議英語』の176～181頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習(30分) 『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
8	<p>①授業テーマ 第1部 講師・演者のための英語表現 第2部 アチソン Acheson Line</p> <p>②授業概要 (第1部) 講演中のスライド上映方法の修正を要請する表現(前半)等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語の上達方法について助言します。(A2・K2) (第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習(30分) 『会議英語』の181～185頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習(30分) 『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
9	<p>①授業テーマ 第1部 講師・演者のための英語表現 第2部 トルーマン Report to the American People on Korea</p> <p>②授業概要 (第1部) 講演中のスライド上映方法の修正を要請する表現(後半)等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2) (第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習(30分) 『会議英語』の186～190頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習(30分) 『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
10	<p>①授業テーマ 第6回から第9回までの授業のまとめ</p> <p>②授業概要 (授業内テスト) 授業内テストを実施する。テスト実施後の解説を踏まえて、知識とスキルの定着を図る。(A2・K2) (実技・パフォーマンス) 第6回から第9回までの学習成果を踏まえた発表を行い、振り返る。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習(30分)</p>

	<p>授業内テストに備えて第6回から第9回の内容を改めて振り返る。指示された実技・パフォーマンスの準備をする。第2期の学習の記録の提出準備をする。</p> <p>④復習 (30分)</p> <p>授業内テストと実技・パフォーマンスの評価を踏まえて学習をさらに振り返り内容の定着を図る。学習の記録をつける。第1期分と比較して第2期分の学習状況と英語力の伸長の関係性を検討する。</p>
11	<p>①授業テーマ 第1部 講師・演者のための英語表現 第2部 アイゼンハワー Farewell Address</p> <p>②授業概要 (第1部) 講演中の論点を強調するための修辭的表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2) (第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習 (30分) 『会議英語』の190～195頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分) 『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
12	<p>①授業テーマ 第1部 講師・演者のための英語表現 第2部 ケネディ Inauguration Address</p> <p>②授業概要 (第1部) 講演中の論点に関する主張に留保をつけるための表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2) (第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習 (30分) 『会議英語』の195～199頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分) 『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
13	<p>①授業テーマ 第1部 講師・演者のための英語表現 第2部 ケネディ Cuban Missile Crisis Address (1/2)</p> <p>②授業概要 (第1部) 講演中の言い間違いの訂正、場面の転換のための表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2) (第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習 (30分) 『会議英語』の199～202頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分) 『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
14	<p>①授業テーマ 第1部 講師・演者のための英語表現 第2部 ケネディ Cuban Missile Crisis Address (2/2)</p> <p>②授業概要 (第1部) 講演中の結論・要約・末尾の謝意・終了のための表現等を習得する。国際業務での経験を踏まえた英語学習意欲の向上や上達方法について助言します。(A2・K2) (第2部) 演説の背景と内容、専門用語を確認する。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習 (30分) 『会議英語』の202～206頁に目を通し、『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い学習する。学習の記録をつける。</p> <p>④復習 (30分) 『コミュニケーション英語1』の該当部分を教材の指示に従い復習する。学習の記録をつける。</p>
15	<p>①授業テーマ 第11回から第14回までの授業のまとめ</p>

	<p>②授業概要  (授業内テスト) 授業内テストを実施する。テスト実施後の解説を踏まえて、知識とスキルの定着を図る。(A2・K2)  (実技・パフォーマンス) 第11回から第14回までの学習成果を踏まえた発表を行い、振り返る。(A2・H1・K2)</p> <p>③予習(30分)  授業内テストに備えて第11回から第14回の内容を改めて振り返る。指示された実技・パフォーマンスの準備をする。学習の記録をつける。</p> <p>④復習(30分)  授業内テストと実技・パフォーマンスの評価を踏まえて学習をさらに振り返り内容の定着を図る。学習の記録を付ける。第1期から第3期を通して学習の記録と英語力の伸長の関係性を検討する。</p>
関連科目	英語Ⅰ(RMGT1701)、英語Ⅱ(RMGT1702)、英語Ⅲ(RMGT1703)、英語Ⅳ(RMGT1704)、コミュニケーション英語2(RMGT3342)、コミュニケーション英語3(RMGT3343)、コミュニケーション英語4(RMGT3344)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>■PDF教材『コミュニケーション英語1』を授業共有ファイルからダウンロードして持参してください。</li> <li>■大杉邦三『携帯 会議英語』大修館書店, 1984年, ISBN978-4-469-24247-8</li> </ul>
参考書・参考URL	<ul style="list-style-type: none"> <li>■石山宏一編『トレンド日米表現辞典(第4版)』小学館, 2007年, ISBN978-4095050645</li> <li>■PDF教材に記載されたURLを参照してください。</li> </ul>
連絡先・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■連絡先 開講時に告知します。</li> <li>■オフィスアワー 開講時に告知します。</li> </ul>
研究比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>■危機管理領域との対応  災害マネジメント10% : パブリックセキュリティ10% : グローバルセキュリティ70% : 情報セキュリティ10%</li> <li>■危機管理学と法学とのバランス  危機管理学90% : 法学10%</li> </ul>

